



Chitose Rotary Club

佐々木会長テーマ
“心ひとつに”

会長 佐々木 金治郎 副会長 大西 信也 幹事 佐藤 晴一
会長エレクト 今村 静男 会計 酒井 宏
第2510地区ガバナー 佐々木 正丞 第7グループ・ガバナー補佐 古川 大之

～ 8月は会員増強および拡大月間 ～

本日の例会 (8月5日 第6回) 通常例会 (ゲスト卓話) 「2010-2011年度地区世界社会奉仕活動について」 担当: 国際奉仕委員会
RI2510地区世界社会奉仕委員長 手塚 貴志 様 ～ANAクラウンプラザホテル千歳～

2010年～2011年度 第5回 (通算2124回) 例会報告

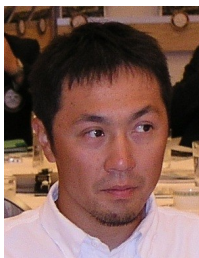
日時: 2010年7月29日 12:30～13:30
場所: ANAクラウンプラザホテル千歳
プログラム: 通常例会 (ゲスト卓話)
担当: 職業奉仕委員会
司会: SAA・プログラム委員 中村 清太郎

四つのテスト



環境保全委員長
平間 和弘

本日のお客様



第50次日本南極地域観測隊員
村上 祐資 様



はらいかわ整骨院 院長
祓川 勝文 様

会長挨拶

会長 佐々木 金治郎



7月最後の例会となりました。時の経つのは早いと感じています。本日の卓話をいただく村上祐資様、オブザーバー出席の祓川勝文様、ようこそお越しくださいました。卓話をさせていただく村上祐資様は、当クラブの村上会員のご子息です。村上祐資様は、第50次日本南極地域観測隊に隊員として参加され、1年間に及ぶ極地での生活を過ごされてきました。本日はその貴重な体験談を、南極滞在記として卓話をさせていただくことになっています。また、本日オブザーバー出席の祓川勝文様は、北陽4丁目整骨院を開業されておまして、このたび今野会員のご紹介によりまして入会をお願いしているところです。今日はオブザーバー出席という形で出席していただきました。本日の卓話は、より多くの皆様に貴重なお話を聞いていただきたいと考えまして、オープン例会としています。後ほど、卓話を聞きにお客様が見られます。また、報告ですが、昨日28日に千歳市戦没者追悼式にロータリーの代表として出席してきました。

幹事報告

幹事 佐藤 晴一

千歳市の日中交流市民会議から、千歳市・長春市市民交流事業として、長春・上海万博7日間の旅の参加募集がきております。興味のある方は、事務局までお申し出ください。なお、事務局は、8月12日から17日までお盆休みとなっています。また、出席委員会から、出席簿に捺す青い印鑑が見当たらなくなったとのことですので、もしご存じの方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出ください。

オブザーバー紹介

社会奉仕委員長 今野 良紀

祓川先生は42歳のピチピチです。結婚はされていますが、子供はいなくて奥さんと犬とで生活されています。見ての通りイケメンで、お客様は女性が非常に多いです。釧路生まれの十勝育ち、江別、札幌、仙台の学校を経て、病院や整骨院で修業を積みまして、平成12年に開業されています。主にスパイラルテープというスポーツ選手などがよくやっているテーピングを行っています。私が祓川先生と知り合ったのは、交通事故で追突された時に、先生の所を紹介されて行ったのがきっかけです。非常に熱心で真面目で、なかなかいないなと思う人です。朝7時くらいからでも患者さんを受け入れていて、私が出張の時は朝の5時半から診てもらったこともありました。是非会員になっていただいて、僕たちと一緒に活動していただきたいと思います。どうぞ皆さん、よろしくお願ひいたします。

ゲスト卓話 南極滞在記

職業奉仕委員長 村上 倫行

今日の講師のプロフィールを紹介します。名前は村上祐資です。私の長男ですが、昭和53年7月24日生まれで、この24日で32歳になりました。独身でございますので、よろしくお願ひします。生まれは北九州市の戸畑区で、現在は横浜の菊名に住んでいます。職業は学生で、第50次日本南極地域観測隊に地圏部門の隊員として参加しました。2008年12月25日に出発し、2010年3月19日に帰国してきました。南極の昭和基地に滞在していたのは2010年2月までです。地震観測やGPS観測を行いました。政策・メディア修士、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程に復学しています。南極や宇宙空間など、極限環境下の建築デザイン、ヒューマンファクターを専門とし、昭和基地のランドデザインに関する調査研究にも携わっていました。本人のブログ“Field Note from Antarctica”があります。「村上祐資」でも検索できますので、ご興味ありましたら、是非ご覧いただきたいと思ひます。

第50次日本南極地域観測隊員 村上 祐資 様



自己紹介ですが、南極観測隊には越冬隊と夏隊というのがありますが、僕は越冬隊員として南極に行っておりました。僕の向こうでの仕事は、地圏という部門の観測を担当していました。地圏というのは、分野で言うと地球物理と呼ばれる分野です。地球物理は、地球のプレートテクトニクスという言葉聞いたことがあるかもしれませんが、南極大

陸がどのように動いているとかを調べたりしています。それをGPSとか、特殊な光、人工衛星などを使って観測します。僕自身は特に地圏を専門にずっとやっていた訳ではなくて、皆さんにはなじみがないかもしれませんが、極地建築という研究を専門でやっています。極地建築というのは、「極地」、たとえば南極であるとか、宇宙であるとか、人があまり住まないようなところの建物であったり、そこに住む人々の暮らしなどを研究しています。それでどうしても、自分も極地に行きたくて、4年くらい紆余曲折がありましたが、念願がかなって南極へ行くことができました。地圏の専門でない僕が南極へ行ったのは、個人的な理由としてはこのようなことだったのですが、隊の仕事としては宇宙飛行士の仕事に似ていますが、国内に地圏の専門の研究者がいて、どこどこに行こうというデータを取ってきてほしい、というように僕に指示がきまして、そうすると僕が、どこどこと言っても簡単に行けるところではないのですが、1週間くらいかけて雪上車で行って、当然車中泊やテント泊なのですが、データを取ってきます。そういう形で1年半南極で過ごしてきました。

昭和基地について

昭和基地がどこにあるかということ、すごくアクセスしづらい所にあります。日本が南極観測を始めたのは戦後の復興期で、敗戦国ということもあり、南極の調査をしたいといっても良い場所を与えませんでした。当時のアメリカの軍のレポートでは、昭和基地近辺は到達不可能と言われた場所でした。飛行機で行くには距離がありすぎるので、燃料の関係で現実的ではありません。船で行くとすると、この辺りは氷が非常に厚く、以前に日本の観測船がスタックしたということもあるくらい厳しいところです。

昭和基地はあまり知られていないのですが、南極大陸上にあるわけではありません。東オングル島という島の上に建っています。オングルというのはノルウェー語で、ここら辺はノルウェーが領土権を主張している場所になります。南極観測が始まるようになって領土権は凍結になったのですが、地名だけはノルウェー語のままです。ちなみにオングルというのは、釣り針という意味だそうです。僕らが観測に行く時は、ここを拠点にしていろいろなところへ行きますので、海の上を渡っていきます。海の上といっても凍っているの、雪上車で渡れます。

第50次日本南極地域観測隊について

僕らの隊は、英語で言うと Japanese Antarctic Research Expedition、頭文字を取ってJARE、第50次隊ですのでJARE50と言ひます。第50次隊という意味は、50回越冬隊の入れ替えをしたということです。今はちょうど51次隊が昭和基地に滞在していて、52次隊は11月に日本を出発します。

越冬隊の構成は、まず隊長がいます。後は10名の観測系の隊員がいて、ミッションとしては観測がメインとなります。僕もここにいます。その他の人たちは、設営、ロジスティックスを担当して、基地の維持管理や、人間のケア、食事などを担当しています。その設営の中で一番多いのは、機械系の隊員で6名いま

す。例えば、昭和基地の発電機のメンテナンスですとか、電気関係のメンテナンスとかを担当しており、雪上車などのメーカーから来ている人もいます。また、昭和基地では通信が命綱になりますので、通信の隊員がいます。後は調理人が二人います。二人の医療隊員、つまりお医者さんもいます。また、環境保全といひまして、南極では全てのごみを持ち帰らなくてはいけないというルールになっていますので、ゴミの分別ですとか、焼却などの仕事を担当する隊員もいます。また、多目的アンテナ、つまり観測用のアンテナを維持管理している人もいます。また、昭和基地ではインターネットができるのですが、そのインターネットのLANの担当をしている隊員もいます。さらに、建築の担当がいて、昭和基地が風で壊れたりした時に修復を行ったりします。また、フィールドアシスタントという隊員がいます。これは、南極ならではの職業なのですが、南極での生活は危険が伴います。初期の調査隊の隊員は、研究者でありながらプライベートではヒマラヤに登るといったようにタフな研究者が多かったのですが、現在はそのような人材が育っていません。従って、あまり雪山のことを知らなかったりする観測隊員のサポートをする、山岳ガイドのような仕事をする隊員が一人来ています。それから、庶務といって国内と調整したり、輸送の仕切りをしたりなど、いろいろな調整をする役割の隊員がいます。

南極の様子

海の上では安全かどうかチェックしながら渡りません。下が雪、その下が海が凍った氷なのですが、そこが潮汐の関係で割れたりすることがあるので、そこが安全かどうかゾンデ棒という棒を持って、突つきながら進みます。本当にひどいブリザードになると外出禁止令が出て、外に出ていけないというようになります。基地の前にはガイドロープが張ってあって、ホワイトアウトの時はこれを頼りに移動します。本当にひどいブリザードになると、手を伸ばすと肘から先が見えなくなりますので、野外でトイレに行くのも命がけになります。僕も周りがよく分からなくなった時があったのですが、そういう時は動かないことが得策です。風の息というのがあって、どんなに強いブリザードの時も一瞬だけ風が緩む時があります。その時に何か目標となる建物や山の陰影などが見ればそこを目標に動けば良いのです。

ブリザードになると夜通し建物がガタガタ揺られます。その後には除雪が待っています。8mくらいの高さの高床式の建物も、1回のブリザードで全部埋まってしまうので、人力や重機を使ったりして除雪をします。僕らの南極滞在中は、過去最悪の積雪量を記録しましたので、除雪の思い出ばかりです。

極夜の時期になるとオーロラが見えます。オーロラは太陽活動によるのですが、僕らの年は、100年に1度くらいの見えない年で非常に残念でした。見えても、ちょっと白味がかかった感じでした。ちなみに18年後にもっとオーロラが見えない年がありますので、18年後にオーロラツアーに参加するのはやめた方がいいです。また、極夜の時期はお祭りをします。南極での正月みたいなもので、極夜の折り返しの時にミッド・ウィンターというお祭りをします。シェフは

腕によりをかけて食事を作り、屋台も出たりします。また、他の国の基地とグリーンティング・カードの交換もします。冗談で「うちのディナーに来ないか」という招待状が来たりもするのですが、その基地まで行くのには1カ月くらいかかりますので、これは完全に冗談です。

10月くらいになると、いよいよ春になってきます。春になると、動物が見れるようになります。息継ぎ穴の中からは、アザラシが気持ちいい表情で覗いています。彼らは、歯で穴を開けるようです。また、ペンギンも出てきます。ペンギンは腹ばいで動くと、非常に速いです。ペンギンの営巣地では、ペンギン同士が喧嘩していたりして、ペンギンの人間模様というか、ペンギン模様が現れていました。また、トウゾクカモメという、ペンギンのひななどをエサにする凶暴な鳥もいました。

夏になるとお迎えのヘリがやってきます。夏といってもお正月ですので、おせちを作りました。この時期になってくると、ペンギンのひなが見られます。いよいよ最後の夏が過ぎると、昭和基地を離れ、しらせに乗って観測をしながら帰りました。

南極生活を終えての感想

さきほど、ロータリーの例会の最初に、皆さんが「四つのテスト」を読み上げていたのを聞いていたのですが、これは非常に南極の生活に当てはまるものの印象を受けました。

「真実かどうか」というのは、僕たちは1年間同じメンバーで過ごしますので、自分を装おうとしてもごまかしがききません。かえって自分を装うと辛くなってしまっているので、全部さらけ出して素の付き合いをします。もちろん、それで「この人とは合わない」とか、逆に「この人は最高だ」という経験ができますが、常に素の状態で居ざるを得ない感じでした。

「みんなに公平か」というのは、南極では実は僕が最年少だったのですが、基本的には隊長がトップで、その下はみんながヒラという関係になっています。逆に言うと、年齢も言い訳にできないですし、28人全員がそれぞれプロとして自分の仕事を全うしないはいけません。これは、公平でもあり、また非常に厳しいことでもあるという感じを受けました。

「好意と友情」ということですが、これは非常に南極で感じたことです。南極では、「観測隊員でなければこういう人たちとは出会えなかった」というような人たちと長い時間をかけて、好意や友情を育みました。これは、自分が南極で得た一番の財産だと思っています。

「みんなのためになるかどうか」ということは、南極ではそういう思いで行動していないと、自分だけのためということで行動してしまうと何も成立しません。常に、みんなのため、自分のためと思いながら生活していました。

また、ここにはないのですが、やはり「自然は大きい」というのを感じました。僕は南極で「あきらめる」というのを覚えたのですが、あきらめるというのは立ち向かう相手、つまり自然に対して見極める、投げ出してしまおうのではなく、これ以上やると自分の身が危ないというところではあきらめて行動する、と

いうことを覚えました。それくらい南極の自然は厳しいものでしたし、逆に温かいとも思いました。後は、太陽に生かされているということを感じました。人間は太陽のリズムに合わせて生きていたと思います。

そして、もう1回南極へ行きたいと思っています。僕たちの28人の越冬隊員のうち10人くらい経験者がいて、彼らがいろいろなことを教えてくれました。僕にいろいろと教えてくれたものを、僕がバトンを受け継がなくてはいけない立場になったと思います。すごく成長させてもらったとの思いがありますので、恩返しをしたいと考えています。次に行く時は、南極は楽しいだけでなく、すごく厳しいということが分かっているのですが、それを踏まえた上でも、やはり恩返しをしにもう1回行きたいと考えています。

今回の卓話の詳細な内容を千歳ロータリークラブのホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

第7回理事会を開催

第7回理事会が7月29日の例会終了後、例会場で開催されました。審議事項は、①8月の例会について②9月の第1例会について③ピンクリボンチャリティーゴルフコンペ（仮称）について④委員会予算について⑤次回理事会について—の5点でした。審議の結果は、①8月の例会は、5日（木）に国際奉仕委員会担当の通常例会で外部講師卓話「R1第2510地区の世界社会奉仕（WCS）について」講師は地区世界社会奉仕委員会の手塚貴志委員長、12日（木）が夏季休会、20日（金）に19日（木）の振り替えで夜間移動例会（盆踊り）、26日（木）が会員増強委員会担当の通常例会。②4日（土）は早朝移動例会で千歳神社例大祭後の清掃奉仕を午前5時半に集合して行う。③乳がん撲滅運動を、社会奉仕委員会として推進するため、市内のRC、LC、JC、ソロプチミスト、プロバスクラブにも呼び掛けてインターゴルフクラブでゴルフコンペを企画。終了後にリアンで表彰懇親会。10月6日を軸に他クラブと整合性を取り、実現に向ける。④予算書を配布し、理事会として了承。⑤次回理事会は、8月26日（木）の例会日に開く。

企業PR

大澤 雅松 会員

9月12日に千歳おはよう橋国際マラソン大会が、私ども千歳民報と陸上協会の共催で開かれます。今年で21回目なのですが、20回目までは「国際」というのが入っておりませんでした。今回「国際」というのを入れまして、国際交流の場にしていきたいと思っています。これに関連して、マラソンを行う陸上競技場のそばになかよし広場というのがあるのですが、山三ふじやさんをお願いして冷たい飲み物ですとか、温かい食べ物などを有料なのですが提供することになっています。走らない方も、応援する方も、その場所で走り終えた方々と交流して頂きたいと思っています。なお、この日はセントラルロータリークラブの20周年の式典の日なのですが、式典は4時からで、私どものマラ

ソンはだいたい昼ごろに終わりますので、交流広場も3時には閉めたいと思っておりますので、セントラルロータリーの式典に参加する前にちょっと寄っていただいて、国際交流を楽しんでいただくということで遅れないで式典に参加できると思います。

出席率

今回：71.9%（7月29日＝41/57、実数）

確定：82.5%（7月15日＝47/57、うちメーキャップ0名）

スケジュール

（8月のプログラム）

- 5日（木） 通常例会 担当：国際奉仕委員会
- 12日（木） 夏季休会
- 20日（金） 夜間移動例会（盆踊り例会）
担当：新世代・ローターアクト委員会
- 26日（木） 通常例会 担当：会員増強委員会

（ローターアクト例会）

- 20日（金） 千歳市民納涼盆踊り出店
グリーンベルト

（プロバスクラブ例会）

- 10日（火） 例会（ビアワークス）

ニコニコBOX

佐々木 金治郎 会長

7月23日に千歳商工会議所創立50周年記念行事として空港フォーラムが無事に終わりました。ありがとうございます。

大澤 雅松 会員

9月12日に千歳おはよう橋国際マラソン大会を開きます。

下山 徹哉 会員

先週は出張で欠席しました。ニコニコBOXの代役を酒井会員にやっていただき感謝しております。ありがとうございました。

瀧澤 順久 会員

妻の誕生日にお花をいただきありがとうございます。

今野 良紀 会員

セツパラ・エンミさんのホームステイが、今日早朝の空港見送りをもって無事終了しました。カチカチの緊張がようやく無くなります。

高橋 都 会員

お久しぶりネ。

村松 克重 会員

妻の誕生日に花をいただきありがとうございます。

佐藤 晴一 幹事

本日の卓話よろしくお願ひします。オブザーバーの祓川さん、ようこそ。

本日のニコニコ集計 8人 8,000円